

特別支援を必要とする子どもを見守る保育の重要性と保護者支援

～専門機関との連携を通し、子どもの育ちを支える～

1、はじめに

忍野村は富士北麓に位置し、四方を山に囲まれた高原盆地であり、東部の内野地区と西部の忍草地区の2つの集落から成る。富士の自然が育んだ澄んだ水、目の前には雄大な富士に見守られ、自然に恵まれた環境の中で教育が進められている。また、産業用ロボットの世界的なメーカーで知られているファナックの誘致により村全体の人口が増加し、教育においてもより一層全体で取り組み、教育も向上している。

忍野村には公立保育所（内野保育所・忍草保育所）2園、公立幼稚園（認定こども園忍野幼稚園）1園、認可保育園（ウブントウ・エンジェルの森・ファナック保育園）3園、公立小学校と中学校が各1校ずつある。

内野保育所は、園児113名、職員29名在籍し、0・1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児の計5クラス、一時預かり保育（随時受付）で運営。2歳児クラス以上の各クラスに1名の支援保育士を配属、特別支援を必要とする子どもたちの保育に携わっている。

2、保護者支援について

日常の保育の中で子どもの発達において気になることを察知し感じた時には、担任保育士がひとりで抱えるのではなく、同じクラスの保育士、所長、主任、先輩保育士に相談し、園全体で共通理解を深め、また、村の保健師との情報交換を交わすなど、今後の支援や保護者への対応について考えている。

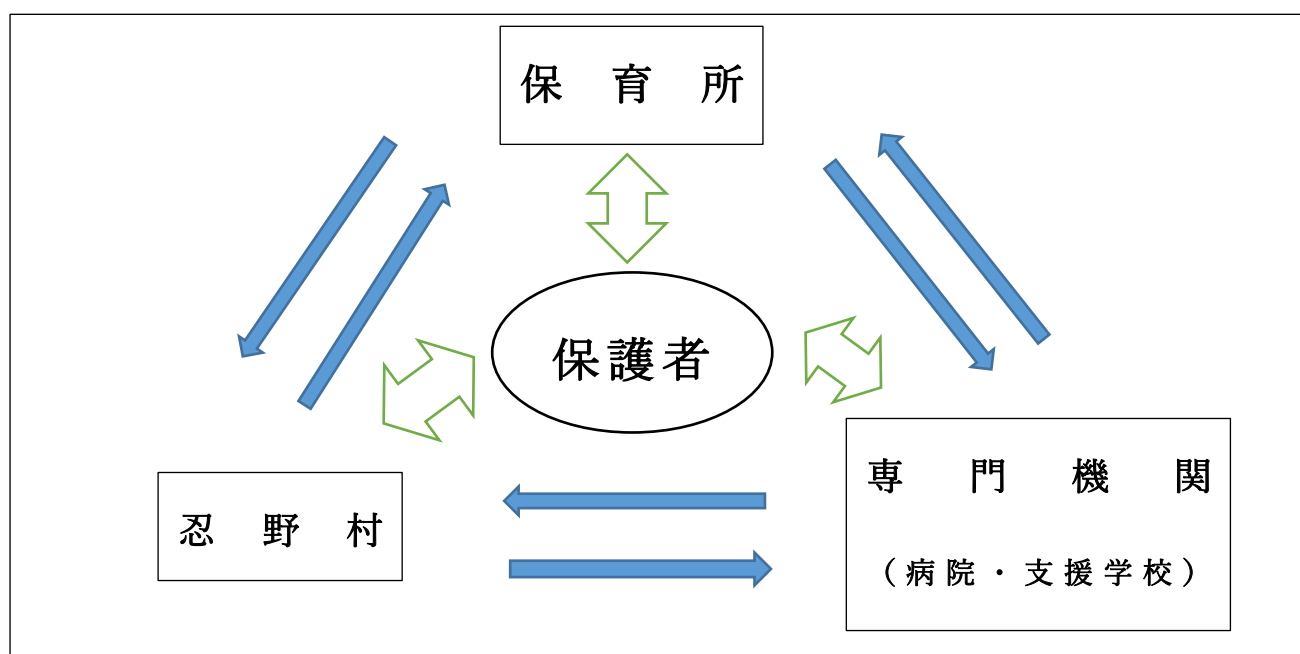
ただ、ここで重要視されるのは、「保護者との信頼関係」である。信頼関係が築かれないまま安易に話してしまうと、保護者は園や保育士に対して心を閉ざしてしまい、本来できたはずの支援まで行き届かない可能性も出てきてしまう。そこで、保護者との信頼関係が確立できるよう、子どもの様子を1つ1つ丁寧に伝え、園での対応を話し、保護者との共通理解が少しずつ得られるようにしている。時には面談を通し、じっくりと話せる時間を設け保護者とのコミュニケーションの時間を大切にしながら、信頼関係を確立したうえで支援へとつながられている。また、平行に園での対応も保健師や専門機関に相談するなど子どもの支援に寄り添って理解できるよう準備も進めている。

3、専門機関との連携について

専門機関の子どもの定期受診では、子どもの発育状況や発達状況を把握し、子どもは何が得意で何が苦手なのか、どのような方法がわかりやすいのか、個々の子どもに適し

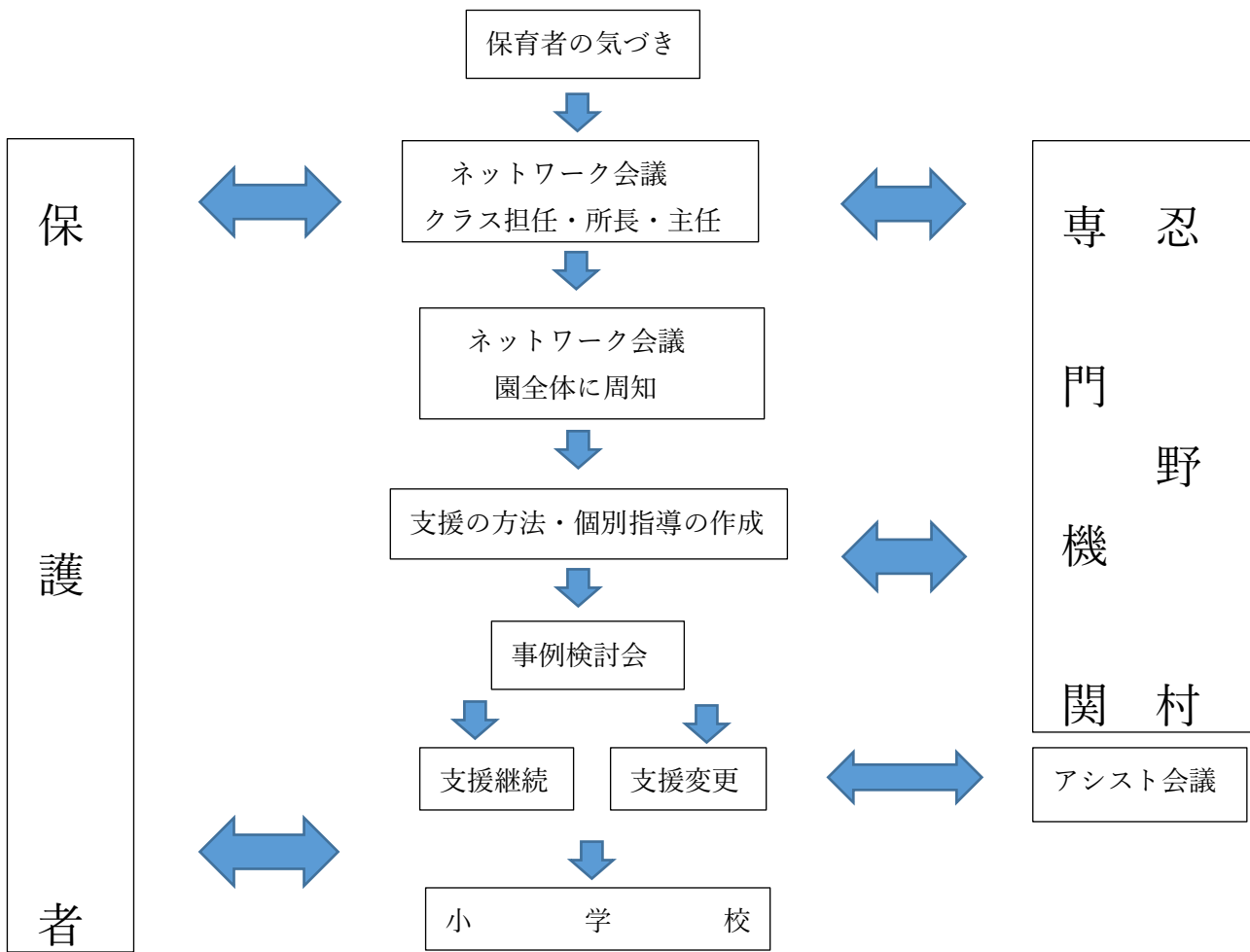
た専門的知識からのアドバイスや相談をしている。子どもは、保育所、幼稚園などの集団生活が始まると担任との信頼関係を徐々に築いていくことになる。保育所での生活が長くなるにつれ子どもの姿を見極め、一人ひとりの子どもの特性に気づきを感じる。

本園では専門機関との連携として、ふじざくら支援学校の巡回相談を年3回実施。専門家の先生に来ていただき、実際に子どもの様子を見てもらっている。その後、話し合いを設け専門家のアドバイスを受け、その子どもにあった必要な支援へと導いていけるようにしている。また、専門家のアドバイスを保護者にも伝え、専門機関との情報を共有している。小学校入学前には、アシスト会議（忍野村の教育委員会、小学校、保育所、幼稚園、保健師、ふじざくら支援学校）を行い、子どもにとって望ましい就学先について検討している。保健師を通じて、保護者、保育士、専門機関の3つの情報を共有することにより、より一層の支援へとつながっている。また、必要に応じ、専門機関への受診もすすめられるようになった。



～保育所・保護者・専門機関との話し合いの様子～

<保護者・保育所・専門機関と忍野村との支援フロー>



★忍野小学校特別支援学級ってどんなところ？

ひまわり（促進学級）

あおぞら（知的学級）

つばめ（自閉症・情緒学級）



※ひまわり学級は忍野村独自の学級である

4、保育士が実際に専門機関と連携したことにより、子どもたちの育ちを支えることができた事例について紹介する。

(年長 A くん)

① 当時、年中だった A くんは、相手と関わりたいという思いからか友達に手を出してしまうことがあった。

◆ 専門機関からのアドバイス

気持ちを受け止め「〇〇くんと遊びたかったね」と声をかけ、肩をトントンする等、具体的な方法を A くん に教えていくと良い。

◆ 結果

年長になって友達に手を出すことがほとんどなくなった。又、「優しく手をつなごうね。」等と声をかけると、A くん なりに力を加減し関わろうとしている。

② 早食いや体重増加が気になる。

◆ 専門機関からのアドバイス

トング箸の使用や食べる順番（野菜から）や一定量を小皿に取り分け小出しにする。

◆ 結果

噛む回数はまだ少ないが時間をかけて食べるようになった。

(年中 B ちゃん)

① 気持ちのコントロールが難しく、体をかきむしる、髪の毛を引っ張る、床にひっくりかえる、壁に頭をぶつけるなどの自傷行為があった時はどうしたらよいか？

◆ 専門機関からのアドバイス

ぬいぐるみや枕等の柔らかい物、好きな玩具やソファを置く、描いた絵を貼る等、クールダウンできる部屋を作る。B ちゃん が投げて危ない物（椅子等）は置かない。又、他の園児がいる場所とは別の部屋の中に短く切ったポリエチレンテープを貼り、触れることで音に傾け、触った感触を味わえるよう、好みに合う感覚を探っていく。保育士が B ちゃん の頭皮を刺激していくことで、他の感覚を感じさせ自傷行為を減らしていく。

◆ 結果

自分だけの静かな空間を作ることで、他児の声をシャットアウト出来、安心して過ごす時間がもてるようになった。又、自分だけの空間（自分の部屋）が形成されたことにより他児を受け入れることができるようになった。自傷行為が減ったことで他児との人間形成が成り立ち、自分以外の人に興味や関心が生まれた。B ちゃん の次のステップにつながる事ができた。

保育士が B ちゃん の頭皮や腕や足をマッサージし触れることによって、感覚の刺激を受けたいのか、自傷行為は減ってきた。

② 新しい環境や物事に対して抵抗がある。

◆ 専門機関からのアドバイス

その時の状況の写真等、イラストカードを使って、いつもと違う環境の変化を前もって繰り返し伝え、見通しを持たせることが大事。目からの情報が入りやすいのでそこを活かしていく。

◆結果

人が多い所は苦手なので、集会がある時に事前にイラストカードを使い、実施する場所に連れていったりすることで、見通しを持ち入室がスムーズになった。繰り返し行うことで集会等、人が集まる場所にも保育士の言葉だけで入室したり、行事に取り組んだりすることができるようになった。

(年少Cくん)

- ① 2歳児の4月から入所、家庭ではご飯を食わず粉ミルクのみしか飲まなかった。11月から急に少量だが流動食を口にするようになったので、東部口腔センター歯科医や作業療法士に食べ方の指導をうける。

◆専門機関からのアドバイス

食に興味を持てるよう、他児や保育士の食べている様子を見せる。ご飯におかずを混ぜず、単品ずつスプーンの三分の一程度の量にする。顔の筋肉が固い為、唇の周りを指でマッサージをし、スプーンの裏側を使い口の中を広げるように日々刺激を与えることで顔の筋肉を柔らかくしていく。

◆結果

現状、3歳10ヶ月でもすりつぶした状態の物を食べ、自らスプーンを持ち手掴みで食べる姿がない原因の一つとして感覚過敏もある。東部口腔センター歯科医による咀嚼指導により、養われて食べる量は増えた。また、歯石が多い為、歯みがき指導も受ける。

- ② 眠れなかったり、泣いて自分の頭を叩くことが多い。

◆専門機関からのアドバイス

暑さも原因の一つとして考えられるのでエアコンをつける等、涼しい場所を確保してはどうか

◆結果

食事と午睡する部屋に設置したエアコンを使用し、室温を下げたところ、ぐずったりする回数が減ってきた。

- ③ 水分を飲む量が少ない。ポカリスエットやリンゴジュースといった甘い物は飲むが、麦茶や水は飲まない。

◆専門機関からのアドバイス

暑い時期に水分をとらないのは、脱水症状になる危険性もあるため、Cくんが飲める物を与えたほうが良い。

◆結果

糖分が増えることを気にしたが、水やお茶からポカリスエットにする。多い時は200ml飲むこともあった。

※実際にC君が日常使用している個人記録ノート（24時間記入）

C君の生活状況

R2年 ○月○日（曜日）

天気（ ）

時間	食事・薬	睡眠	運動・生活	備考（温度湿度）
0:00				
～				
23:00				

（今日の振り返り）

保護者は家庭の様子・保育士は園の様子を記入する

東部リハビリテーション

食事の様子

すりつぶした食事

受診の様子



5、おわりに

内野保育所では、保育所に入所前からかかわってきた担当保健師と共に各専門機関に同行し、今後どうしたらいいのか、具体的な方法などを保護者と保育所と保健師で一緒に模索し、子どもの育ちを支える保護者支援に重点を置き、保健師とともに支えている。就学前の学校訪問は、教育委員会や学校に配慮してもらい、年中児から見学をさせてもらうこともある。年中児での学校訪問は保護者も余裕をもって考えられ、就学に向けての課題が見え、それに向けての具体的な取り組みにもつながることができた。それでもいざ、年長児になり就学先の決定時には「支援学校なのか、小学校なのか」どの選択が子どものためなのか、保護者の気持ちは揺れ、親としての選択が本当にそれでいいのか迷い、夫婦の意見の食い違いや思いの温度差を感じることもあった。保護者との話し合いには担任だけではなく所長・主任・保健師も同席し、最終的な判断は保護者にゆだねた。

事例にある年少C君は3歳で入所し、保育所生活は1年半だが、C君の成長を共に喜び、問題に対してはどうしたらいいのか具体策を考え、保護者と保健師と共に見守ってきた。今回C君の保護者に保護者のメッセージをお願いしたところ、「私は隠すことも、恥ずかしいと思う

こともありません」と快くお返事いただけ、最後に「保護者からのメッセージ」として掲載することができたので、支援を必要とする保護者のメッセージとして載せた。

特別支援を要する子どもたちはそれぞれに支援の方法は異なるが、今後も保育所だけではなく、保健師やふじざくら支援学校等の専門機関のアドバイスを受け、子どもの成長はもちろん保護者も支援していきたいと思う。そのために保護者のニーズに応えられるよう、話し合いの場を計画的に持つこと、保護者の気持ちに寄り添い関係性を築くこと、子どもの育ちと一緒に見守ること、保護者と共に成長した部分を共有しあい、気になる点や問題点について具体的な方法を一緒に考えていくことに、これからも努めていきたい。保育所、保育士だけの支援ではなく、各関係機関が1人の子どもの育ち、教育的ニーズを把握し、それぞれに適切な支援（その子の特性・発達段階の把握など）を行っていくことが、子どもの成長につながり、何より保護者が落ち着くことで、子どもが落ち着き、安定することもかわりの中で見えてきた。

保育士不足の中、福祉保健課が保育所や支援を必要とする子ども、保護者への理解を持ってもらえたこと、保育士確保のために動いてもらえたことも大きいといえる。決して子どもの育ちは保育所だけで担うものではなく、各関係機関の連携が必要であり、10年、20年後と公立保育所として忍野村として体制を構築し、連携協力をもって、今後も子どもたちの育ちを支えていきたい。

保護者からのメッセージ 1

私は今年4歳になる息子を持つシングルマザーです。息子が「自閉症」とわかったのが去年。最初は発達が普通の子より遅いのだろうと思っていましたが、2歳なのに言葉も出ない、やる気が遅いのは少しおかしいと思い、村の保健師さんに相談し、病院に受診し精密検査をしてもらいました。病院では「脳波や脳には異常はない」と言われました。先生より富士・東部小児リハビリテーション診療所を紹介してもらい1年間受診し、今年の3月「自閉症」と診断されました。その時私は「ああ、やっぱり…」と思い、この先どうしたらいいかと不安になりました。不安の日々と初めての子育てで毎日イライラが止まらず、泣くこともありました。ですが、保健師さんや保育園の所長さんをはじめ多くの人たちの力を借りてここまで来ました。息子は療育手帳を持っています。今、通っている所長さんが、保育士が1対1で見ることができ、受けられるサポートもたくさんあるので、どうかと手帳をすすめてくれました。息子のためなら、と手続きをし、今年の4月に取得しました。1対1で見えてくれるので、ガヤガヤと大勢のところが苦手な息子は、みんなとは離れて生活が送れるように配慮してもらえて、安心して園生活を送っています。療育手帳を取得できたおかげで、安心して預けることもでき、保健師さんや先生とのコミュニケーションも密にとることができています。1人で抱え込まないように毎月1回は話し合いの場を設けてもらい、相談にのってもらっています。

3歳で入園し、当時はミルクしか摂取することが出来ず、先生方にはご迷惑をおかけしました。ですが、口腔外科を受診するようになってから、少しずつですが食べるようになり、今ではハンバーグやカレー、シチューなど多くの物を食べるようになりました。これも協力してくださったみなさんのおかげです。また今月（9月12日）にはスプーンを持って食べられるまでに成長しました。少しずつですが、できることが増えて、母としてはうれしく思います。保

育所でも良く見てくださって、この保育所に入れて良かったと思います。私は自分の子が「自閉症」でいることが恥ずかしいと思うようにはならなくなりました。大変なことも多いですが、産んで良かったと今では思えます。

今、私が伝えたいことは、自分のお子さんが少し発達が遅いと感じたら保健師さんに相談してください。否定せず、受け止めてください。急には無理だと思います。私もそうでした。男の子は成長が遅いからと思っていたため、自分の子の病気に気づいてあげられず、治療も遅くなり今、後悔しています。主治医にも言われました。しっかりとした治療を早い内にしないと後々、大変になります。自分の子が少し周りとは違うという現実を受け止められないご両親も多いそうです。ですが、子どもの将来を考え、早めの相談・診療・治療をしてほしいと思います。障害を持っていたとしても、かわいいわが子には変わりありません。早めに相談してほしいです。

最後に、福祉関係者の皆様にお願ひがあります。発達障害や自閉症の病気をもった方々のサポートをお願いします。私もそうですが、障害を持った子どもを育てる親はとても大変です。生活も子育ても通常の2.3倍大変になります。中には、働きながら見ている人もいます。いろいろなサービスや施設をもっと利用できるようにして欲しいです。子育て支援の中に同じような障害を持った保護者の方たちの交流会がないので、そういう場を設けて欲しいです。ぜひ、よろしくお願ひします。

保護者からのメッセージ 2

年少から専属で先生についてもらい日々成長していく様子が分かりました。以前では、家でも保育園でも暴れ、話が通じず対処の仕方が曖昧でしたが、先生が付き始めは見守って過ごし自分のやりたいことをやらせてもらい、次第に本人の気持ちも落ち着いてきて、ちょっとしたことでも気にしなくなりました。また、他の人にも関心を持ち、コミュニケーションも以前よりすごく良くなり、家でもよく言葉を出すようになりました。周りの泣いている子をみると、「大丈夫」と声をかけるぐらい良くなりました。でも、急なできごとでは、とまどい、パニックなど起こしてしまいましたが、声をかけ、話をゆっくりしてあげると納得できるくらい成長しました。まだまだ、感情的な面で難しいことはありますが、今後も、先生方と一緒に子供にとって一番良いと思われる解決法を一つの方面ではなく、できるだけ多方面から考えていきたいと思っています。

忍野村立 内野保育所 コロナ禍における地域交流 ～カボチャの菜園活動から地域とのつながり～



毎年、老人クラブの方々と一緒に畑作業をしています。今年はコロナのため2名の方がお手伝いに来ていただきました。



今年は長雨と猛暑でしたが、たくさんのカボチャが実りました。



年長クラスの子どもたちでカボチャを運びます。



大きなカボチャはみんなで協力して!!

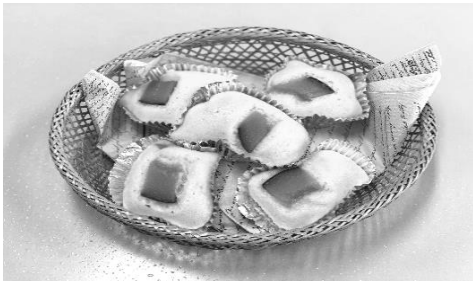


重いよ!!



たくさんのカボチャを収穫!!
100個以上のカボチャを収穫しました。車で福祉事業へとおすそ分け!!





カボチャ蒸しパンにしてお手伝いいただいた老人クラブのかたにお届けしました。3時のおやつにどうぞ!!



エンジェルの森



ウブントゥ忍野の森



忍野幼稚園



忍草保育所



ファナック保育園



役場や福祉保健課には子どもたちが飾り付けたカボチャを玄関に飾ってもらいました。



～あとがき～

緑色のカボチャもオレンジのカボチャも忍野村の各福祉施設（村内にある保育所・幼稚園・児童館・デイサービス・特別老人施設等）におすそ分けしました。緑のカボチャは美味しく調理していただき、オレンジ色のお化けカボチャはハロウィン用に役場や福祉保健課にも飾っていただきました。これまで同じ村内にありながら、交流のなかったエンジェルの森とウブントゥ忍野の森とはコロナ禍でも何か交流ができないかとのお話もいただき、ウブントゥとはあそび場交換をすることに、エンジェルの森は飼っているヤギを保育所に連れて来てもらうことになりました。子どもたちが育てたかぼちゃからいろいろな形でご縁が生まれました。